

# 2026 SAPPORO

## 第45回 全国学校図書館研究大会札幌大会

主催 北海道学校図書館協会 札幌市学校図書館協議会 公益社団法人全国学校図書館協議会 北海道教育委員会 札幌市教育委員会

テーマ 「つなげる つながる学校図書館 ～確かな学びと豊かな心」

趣旨 学校図書館は、学校での読書教育を支える「読書センター」機能を果たしています。図書・新聞等の資料やICTが充実した学校図書館の「学習センター」「情報センター」機能も欠かせません。子どもたちの読書環境を整えるため、研鑽を続けたいと考えています。

参加者 学校図書館に関心のある方などなたでも  
定員 2,000人  
参加費 資料代、研究集録代として  
一般 8,000円 大学生 4,000円



本研究大会は、一般社団法人授業目的の公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の共通目的基金の助成を受けて実施されています。



大会公式LINE  
詳細・お申込みはこちらから！



2026.8.10 Mon ~ 12 Wed  
札幌コンベンションセンター  
北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

【記念講演】は、

無料公開

いたします！

会場へお越しください。

### 記念講演

8.10(月) 10:30~ 11:00~  
札幌コンベンションセンター 大ホール

受付

開演

### 「宇宙から見た 学校図書館の未来」

### 毛利 衛 氏

(もうり まもる)

宇宙飛行士  
日本科学未来館名誉館長



<略歴>

1948年北海道生まれ。理学博士。1985年北海道大学助教授 核融合研究者から日本初の宇宙飛行士に選ばれ、宇宙開発事業団(現 JAXA:宇宙航空研究開発機構)に転身。1992年NASAスペースシャトルに搭乗し、日米研究者が提案する43の無重力宇宙実験を遂行した。また同時に子どもたちへ向けて行った宇宙授業は国民的イベントになった。2000年NASA/JAXA宇宙飛行士として立体地図作成ミッションを遂行し、ハイビジョンカメラによる初めての地球観測ミッションデータ取得に成功した。同年10月 日本科学未来館初代館長に就任。2003年には海洋研究開発機構(JAMSTEC)の「しんかい6500」で水深6、500m地点に潜航し深海で60項目に及ぶ実験を遂行。同年世界初の南極皆既日食観測に参加し、映像をNHKで生中継。2007年には国立極地研究所(NIPR)の昭和基地開設50周年記念行事に参加し、南極から日本、タイ、オーストラリアの科学館をインターネットで同時に結び地球環境授業を行った。またアジア初の世界宇宙飛行士会議や世界科学館会議を東京で主催した。最先端科学技術を社会に伝える場作り、科学コミュニケーションの人材育成に取り組んできた。現在、産官学種々の役員として社会貢献するとともに、SDG's活動を通じ全国の地域活性や次世代の人材育成に活躍している。

<専門>

核融合材料科学、真空表面科学、宇宙実験、科学コミュニケーション

<主な受賞>

内閣総理大臣顕彰、応用物理学会業績賞、NHK放送文化賞、NASA名誉勲章、オーストラリア名誉勲章、仏レジオン・ドヌール勲章、北海道民栄誉賞、福井県栄誉賞、藤村記念歴程特別賞、イーハトーブ賞、日本表面真空学会特別名誉会員、など多数

<主な著書>

『モマの火星探検記』講談社、『日本人のための科学論』PHP新書、『宇宙から学ぶ～ユニバソロジーのすすめ』岩波新書、『わたしの宮沢賢治～地球生命の未来圏』ソレイユ出版、など多数

お問い合わせ：大会事務局 ✉ [sla45th.sapporo@gmail.com](mailto:sla45th.sapporo@gmail.com)

# 2026 SAPPORO

# 第45回 全国学校図書館研究大会札幌大会

市民参加  
講演

市民参加  
シンポジウム

に、一般の方も参加できます!

1

お申込み



市民参加講座

2

チケット購入  
(当日総合案内にて)  
一講座 1,000円

3

会場にて受付

お席に余裕がある場合は、当日受付も承ります。



高樓 方子 氏  
(たかどの ほうこ)

市民参加  
講演

8月10日 13:40~16:40  
「物語を書くということ」

1955年函館市に生まれる。東京女子大学在学中に福音館書店の知己を得、卒業後、同社の雑誌に短編童話を発表して以来、物語、幼年童話、絵本など、子どもの本の創作を続けている。『いたずらおばあさん』『へんてこもりいこうよ』で路傍の石幼少年文学賞、『十一月の扉』で産経児童出版文化賞、『おともだちにナリマ小』で同賞、『わたしたちの帽子』で小学館児童出版文化賞、赤い鳥文学賞、『わたしパリにいったの』で野間児童文芸賞を受賞。札幌市在住。

アーサー・ビナード 氏  
(Arthur Binard)



市民参加  
講演

8月11日 9:30~12:30  
「知らなかった、ぼくらの日本語」  
「アメリカ生まれの詩人といっしょに、この列島のこれからをさぐる」

詩人。1967年、アメリカのミシガン州に生まれ、五大湖に囲まれて育つ。高校生のころから詩を書き出し、コルゲート大学で英文学を学ぶ。卒業と同時に来日、日本語でも詩作を開始。第一詩集『釣り上げれば』が中原中也賞に選ばれる。『日本語ほこりほこり』で講談社エッセイ賞、『ここが家だ ベン・シャーン』で日本福竜丸賞、『さがしています』で講談社出版文化賞絵本賞、『知らなかった、ぼくらの戦争』など。ラジオの仕事も多く、2021年に日本民間放送連盟賞グランプリを受賞。

市民参加  
シンポジウム

8月11日 13:40~16:40  
「戦争と平和をどう語り継ぐか」  
「学校図書館の役割」

- ◆アーサー・ビナード氏 ◆森越智子氏
- ◆橋口英二郎氏(童心社編集長)
- ◆北明 邦雄氏(北海道被爆者連絡センター代表理事)
- ◆工藤 俊悟氏(北海道新聞社記者)

【大会テーマ】

つなげる、つながる学校図書館  
～確かな学びと豊かな心



宮西 達也 氏  
(みやにしたつや)

市民参加  
講演

8月11日 13:40~15:00  
「ニャーゴのやさしさ、ティラノのおもいやり」

静岡県生まれ。日本大学芸術学部美術学科卒業。『おまえうまそうだな』(けんがく絵本の里大賞)にはじまる大人気の『ティラノサウルス』シリーズ『はらぺこへびくん』『なきむし』(以上ポプラ社)、「おとうさんはウルトラマン」シリーズ(Gakken)『にゃーご』『おっぱい』『きょうはなんてうんがいいんだろう』(講談社出版文化賞・絵本賞/以上鈴木出版)『かしぎなキャンディーやさん』(日本絵本賞・読者賞/金の星社)など多数の作品がある。



長倉 洋海 氏  
(ながくら ひろみ)

市民参加  
講演

8月11日 9:30~12:30  
「子どもたちの瞳の奥に」  
「写真家が出会った子どもたち」

1952年生まれ。同志社大学卒業。1980年より世界各地の紛争地やアマゾン、シベリアなどの辺境地を取材。土門拳賞、講談社出版文化賞などを受賞。近著に『地球に謳う一長倉洋海が出会った人と風景』、『木から生まれたクリカチ』、『ひろい海にぼくたちは生きている』(2026北海道指定図書)がある。2015年より故郷・釧路で世界に出会う場として「長倉商店塾」を開講。



森越 智子 氏  
(もりこし ともこ)

1958年小樽市生まれ。文芸誌勤務を経て、子どもの権利条約の普及、民間による「子ども白書」や「ピースマップ」の作成など、子どもの人権と平和に関する活動を続ける。『転校生はおおあちゃん! ?』が財団法人人権教育啓発推進センター主催「人権に関するシネストーリー」で最優秀賞を受賞。同作品は人権啓発ビデオとして映像化され文部科学省特選に選定された。著書に『いつかカッコウのように』、『生きる 劉連仁の物語』(第62回青少年読書感想文全国コンクール課題図書)、『Garden 8月9日の父をさがして』(2025こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財・2026北海道指定図書)。日本児童文学者協会会員。日本バンククラブ会員。函館市在住。

ワークショップは市民参加枠がないため、ご希望の方は大会参加をご検討ください!

小寺 卓矢 氏  
(こでら たくや)

ワークショップ  
「写真絵本を作ろう」

1971年、神奈川県生まれ。写真家、絵本作家、ドキュメンタリー映画撮影者。森に息づくいのちの輝きをテーマに作品を発表するかわたら、講演、写真絵本づくり講座、音楽家とのコラボなど多彩に活動。主な著作に『森のいのち』『いっしょだよ』『さくららら』『わたしたちの撮る教室』、『この森をつくるのは』(帯広の森50周年記念事業実行委員会)など。2026年6月に新刊『いとほく』(さくちと共著)を上梓。北海道教育庁非常勤講師。北海道子どもの本連絡会運営委員長。十勝在住。



サイン会も  
あります!

ブックフェアでは作家のみなさんの  
著作コーナーも充実!